

## シンポジウム 基調講演Ⅱ

### ◆質量分析による発見から知的財産・役立つ手法への発展◆

**【講演者】** 田中 耕一

(株式会社島津製作所 シニアフェロー／田中耕一記念質量分析研究所 所長)

#### **【略歴】**

昭和 58 年 4 月 (株) 島津製作所 入社 技術研究本部 中央研究所 配属  
平成 4 年 1 月 英国 Kratos Group PLC. 出向  
4 年 12 月 分析事業本部 第一分析事業部 技術部  
9 年 4 月 英国 Shimadzu Research Laboratory (Europe) Ltd. 出向  
11 年 12 月 英国 Kratos Group PLC. 出向  
14 年 5 月 分析計測事業部 ライフサイエンス研究所  
14 年 11 月 フェロー就任  
15 年 1 月 田中耕一記念質量分析研究所 所長  
22 年 3 月 田中最先端研究所 所長 (兼) 田中耕一記念質量分析研究所 所長  
24 年 6 月 シニアフェロー就任  
26 年 10 月 田中耕一記念質量分析研究所 所長

(社外経歴(現職のみ))

平成 18 年 12 月 日本学士院 会員

(表 彰)

平成元年 5 月 日本質量分析学会 奨励賞

14 年 11 月 文化勲章

14 年 11 月 文化功労者

14 年 12 月 ノーベル化学賞

15 年 1 月 日本質量分析学会 特別賞

専門分野：質量分析を用いた生体関連物質の構造解析手法等の研究

#### **【講演要旨】**

いわゆる理系の学術：自然科学は、まず優れた仮説を構築し、それを検証する作業が主流と考えられている。ただし科学が進むにつれて、解き明かすべき対象は益々複雑な現象が多くなり、超一流の天才でさえも仮説の構築が困難、と考えられる傾向がある。

質量分析を含む特に最先端の分析計測機器の開発や活用の現場では、最先端であるがゆえの失敗も多いが、逆に予知できなかつたり、従来の学説と異なる現象を世界で初めて「見る」好機に恵まれる場面が少なくない。そこからは、天才でも思いつく事が困難な新説や新たな知を生み出す事も可能である。

本講演では、これまでの様々な経験を基に、今後の知的財産創出に繋がるヒントを紹介できる予定である。